

＜コロナ対応：審判業務のやり方＞

- 基本、敗者審判です。主審・得点表示員でゲームを進めます。
線審・コーチは設けません。ラインのジャッジはセルフジャッジになります。
選手用のカゴ等は設置しないので、飲み物も各自持参のバッグに入れます。
- ※ 審判台は使用しません。
主審・得点表示員はマスク着用で、適時水分補給をし、熱中症対策をお願いします。
選手との距離も2m空けるようお願いします。
声をできるだけ出さないで、マッチを進行してください。
- ◎ 手指消毒液は本部に用意してあります。
バインダー・鉛筆・ストップウォッチ・カゴは毎回消毒して渡します。

＜以下のやり方及び注意事項を守って、審判業務をお願いします。＞

- 1 主審・得点表示員（敗者）は一緒に本部に来て、手指の消毒をする。
手指消毒後に、顔や体を触らないように注意する。
- 2 主審は、スコアシート・バインダー・鉛筆・ストップウォッチ・シャトル（筒に入っている）・カゴを、受け取る。
- 3 選手に、スコアシートを見せて、選手名・所属の確認をする。握手もしません。
ポストの1. 15mの位置も確認する。
- 4 コールは、必要最小限とし、ジェスチャー等を工夫する。
「ラブオールプレイ」「フォルト」「レット」「ゲーム」等のみで行う。
ポイントはコールせず、得点表示を必ず確認する。
- 5 得点表示員は、できるだけ、得点表示器の触る範囲を少なくして、得点をめくる。
- 6 シャトルの交換時は、選手がシャトルを直接筒から取り出すこととし、使用済みシャトルは、選手が主審用のカゴに入れる。
- 7 モップ（2コートに1本程度用意あり）の使用は、主審または得点表示員が行う。
- 8 主審が勝者サインをして、勝者にスコアシートを見せて確認する。
- 9 マッチ終了後
 - ① モップを使用した場合は主審が、得点表示器は得点表示員が、それぞれ接触した範囲に、消毒液（2コートに1本程度用意あり）をスプレーし、ペーパータオル（消毒薬とセットであり）で拭く。使用済みペーパータオルは本部へ持参する。
 - ② 作業後、スコアシート・バインダー・鉛筆・ストップウォッチ・シャトル（筒に入っている）・カゴ（使用済みシャトルが入っている）を持って、敗者と一緒に本部来る。
- 10 主審・得点表示員とも、業務終了後は手洗い・うがい等を必ず実施する。
- 11 敗者は、上記の流れを繰り返す。

＜その他 注意事項＞

- トーナメントの場合、初回戦の審判員・得点表示員は、本部で指名します。
- シングルで、得点表示員を同じ所属チームで出せない場合は、得点表示員がないということもあるかもしれません。
- リーグ戦で、コートが固定されている場合は、リーグの中で、審判を交代で実施することになりますが、マッチ毎に本部来て行う手順は、崩さないでください。

＜補足＞

- ※ 線審を置く場合は、対角2線審とし、無言で10秒程度ジャッジを出し、主審とアイコンタクトをとってください。
- ※ 消毒のやり方は、会場によって対応を工夫してください。